

### 巻頭言

### 赴任のご挨拶



<リハビリテーション科 依田 光正 准教授>



この4月にリハビリテーション科診療科長として赴任いたしました、依田光正（よだ みつまさ）と申します。よろしくお願いたします。1991年に昭和大学を卒業した後、これまでに昭和大学病院・東病院、江東豊洲病院、藤が丘リハビリテーション病院など多くの附属病院の勤務を経験してきました（当院にも開院当時に週1回手伝いに来ておりましたが、それももう20年も前ということでした。ただただ月日の流れる速さに驚嘆するばかりです）。昭和大学の各附属病院は建学の精神である「至誠一貫」のもとに診療を行っておりますが、良くも悪くもそれぞれに特徴・個性があります。その中で当科は“昭和大学の医療”（One Showa）ということ意識しており、リハビリテーション医学講座という一つの医局として、どの病院においても最良のリハビリテーション医療を同じように提供できることを目指しております。現状では、リハ処方の方が異なるなど関係する方々にはなにかとご不便をおかけしていることと思っておりますが、今後はリハシステムの統一など“昭和大学のリハビリテーション医療”を確立させたいと考えております。

当院のような超急性期病院では、早期から機能・能力を改善させるとともに、今後のより良い方向付けをすることが急性期リハビリテーションの目標となります。以前は急性期治療が終わってからがリハビリの出番とのイメージがありましたが、現在はより早期から開始することで転帰が改善されるということが常識となっており、リハビリテーションが急性期治療の一環として行われる時代となりました。当院においても可能な限り早期からリハビリテーションを開始することを

心がけております。そのため当院のリハビリテーションは専ら入院患者を対象としており、外来での機能療法は原則的には行っていません。当院退院後もリハビリテーションが必要な場合は、藤が丘リハビリテーション病院に移行されることをお勧めしていますが、より円滑に移行するシステムが必要とされています。また、今後は地域の先生方との連携を強めていくことも当科に課せられた重要な役割と認識しております。

当院のリハビリテーション医療は常勤医師である小生のほかに、理学療法士12名・作業療法士6名・言語聴覚士1名が担っております。昨年まで言語聴覚士は不在でしたが、この4月から新採用となり、これまで十分に行えていなかった言語障害や嚥下障害に対するアプローチにも磨きをかけてまいりたいと考えております。課題としては、当院は心臓手術や心臓カテーテル治療など循環器診療が積極的に行われているにも関わらず、心臓リハビリテーションの施設基準を満たしていないということがあります。早急に改善すべき点の一つと考えます。

折しも新型コロナウイルス（COVID-19）禍でリハ訓練を制限しなければならないなど、多くの患者さん、関係職種にご迷惑をおかけしているところではございますが、この便りが皆さまのお手元に届くころには流行も落ち着き、より良いリハビリテーションを提供していくことができるようになればと心より願っております。



<当院でリハビリテーションに携わるスタッフたち>

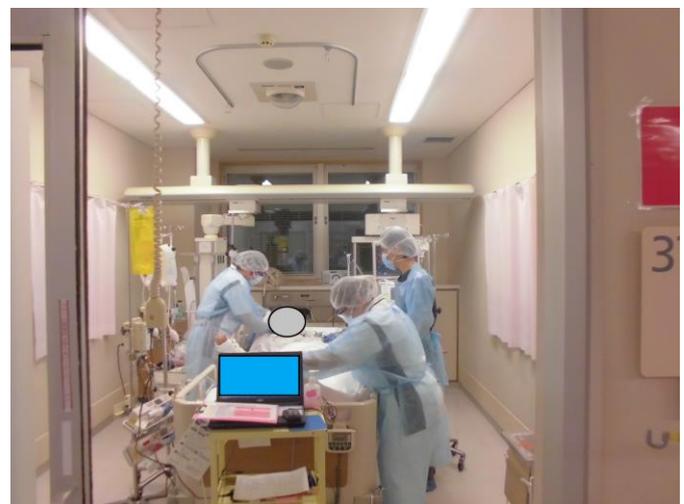
## 医学講座コーナー 当院の COVID-19 対応について

昨年末より発生が確認された新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は世界中に広がり、COVID-19 と呼ばれる呼吸器感染症を併発し重症化を来す症例も多く発生しました。現在、一時期より感染の勢いは弱くなってはいますが、依然として感染者が散発している状況が続いております。

当院での COVID-19 対応は、2020 年 2 月にクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の患者受け入れと災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team : DMAT）隊の派遣よりスタートし、現在に至るまで新型コロナウイルス対応を継続しております。当初は感染管理室主体で対応しておりましたが、国内の感染拡大に伴う患者数の急増に応じて、院内の体制を大きく変える必要が生じ、3 月には COVID-19 対策本部を立ち上げました。その間、一般診療の制限、面会制限など患者さんとそのご家族、関係者には大変なご負担をおかけすることとなりました。この場を借りて、お詫び申し上げます。皆様にご負担をおかけした分、なぜそのような対応が必要であったのかをご説明する義務もあると考え、当院の対応をご説明させていただこうと思います。

ウイルスという目に見えない相手との闘いは、恐怖の闘いでもありました。自分が感染するかもしれない恐怖、他の人に感染させてしまわないかという恐怖、そして、未知の疾患に立ち向かう恐怖。そして、海外の状況や国内の状況などがセンセーショナルに報道され、その恐怖が助長されていく中で COVID-19 対応をおこなって参りました。当院は横浜市北部地域の中核病院としてその役目を果たさなければなりません。そのため、COVID-19 対応だけでなく一般診療をできるだけ維持しつつ、当病院を起点とした感染拡大を生じさせることなく、医療崩壊を生じさせないということを意識し対応を進めました。

感染症の原因となる病原体の多くは目に見えない相手が多く、その対応を行う上で重要なのは、「病原体と直接接触しない」ということであり、ウイルスが存在する場所としない場所を明確に切り離す「ゾーニング」と自分の体を防御する「个人防护具（Personal Protective Equipment : PPE）」の着用を徹底する必要性がありました。院内に新型コロナ専用病床を設定し、ゾーニングを行い、感染区域（レッドゾーン）と非感染区域（グリーンゾーン）に分けました。新型コロナ患者数の増加とともにレッドゾーンを増やし、最終的には 2 つの病棟を主としたレッドゾーンの設定を行い治療にあたりました。しかし、PPE に関しては、慢性的に不足の状況が続き、使用数を制限しながらもレッドゾーンでの防御を徹底する必要があり、綱渡りの状況が続きました。PPE が無くなれば、無防備な状況でウイルスに接することになり、医療従事者が感染し、さらなる感染拡大や診療継続困難となってしまうため、本来使い捨てであるマスクの複数回使用など、通常の PPE とは異なる使用法で感染リスクを上げないような工夫をする必要性がありました。何とか PPE がもっとも不足した状況は節約することで乗り越えられました。6 月第 3 週現在、当院では疑い患者を含む計 310 例（入院 155 例、外来 155 例）、うち新型コロナ確定患者 54 例（入院 23 例、外来 31 例）の対応をおこなっております。



<新型コロナウイルス感染症患者の  
治療にあたる医療従事者たち>

## 医学講座コーナー 当院の COVID-19 対応について(つづき)

今回の一連の新型コロナ禍は生物災害の一種と考えても良いと思います。その災害により日本全国が混乱の渦に巻き込まれました。あまたの玉石混淆の情報があふれ、医療現場においても皆が手探りで対応していかなければならない状況でした。そして、処理しきれないあふれる情報の中から生じた一部の誹謗、中傷などに苦しみながら、そして同時に、地域の方をはじめとする多くの方々に励まされながら、担当者は粛々と COVID-19 に対応して参りました。今、この災害はピークを越え、被災前の日常に戻ろうとしております。ただ、この世界中に広がったウイルスは、また姿を現すことが予想できます。皆さんが今回の経験から学んだ感染防御の習慣を続けることが、第2波、第3波に対しての最高の防波堤となります。体調の悪い時の外出の自粛や他人との接触を避けるなどの自己管理、手洗いなどの手指衛生、咳エチケットなどを徹底していただければと思います。

最後になりますが、まだ今回の新型コロナ禍は終息していません。ここまで、この未曾有の災害の中、レッドゾーンという最前線で戦ってくれた多職種にわたるスタッフ、この体制の中、北部病院の診療を維持してくれた職員の皆様、見えない敵との闘いの中、時に激論を交わしながら現在の体制を築きあげてきた COVID-19 対策本部メンバーの皆様、そして、この混乱の中、診療制限や面会制限などの体制にご協力いただいた患者様とご家族、ご友人、多くのご支援をいただいた地域の皆様に心から感謝申し上げます。

終息に向かって、引き続き皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。(感染管理室 鈴木浩介)

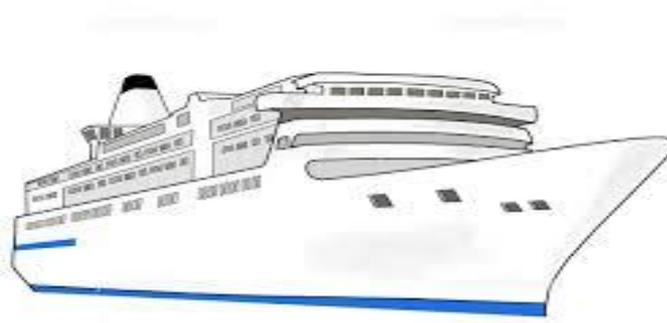
## 【TOPICS】厚生労働省より「ダイヤモンド・プリンセス号」 における医療活動へのお礼状が届きました

この度、厚生労働省より、「ダイヤモンド・プリンセス号に係る医療支援活動に従事した職員に対する御礼」が届きました。

2020年2月、当院からはDMAT(災害派遣医療チーム)隊員の医師2名・看護師2名・業務調整員(薬剤師)2名がダイヤモンド・プリンセス号に関する医療活動に従事しました。感染症に対する活動は、DMATの活動想定においても異例なものでしたが、院内の感染管理部門の医師・看護師の助言を受けながら十分な感染対策を施して医療活動を行いました。

紙面の都合からいただいたお礼状を掲載することはできませんが、当院ホームページに掲載しておりますのでぜひご覧ください。

(<http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/news/2020/20200701.html>)



## 【TOPICS】七夕祭を行いました

7月7日の七夕に合わせて、中央棟1階ホスピタルストリートに七夕用の竹を設置しました。当院の裏山から切り出した高さ5メートルの大きな竹に、色とりどりの短冊が飾られ、院内の雰囲気華やかになりました。

七夕当日、横浜市のお天気はあいにくの曇り空で、天の川を見ることは出来ませんでした。華やかに飾り付けられた竹をみることで、夏の訪れを感じていただけただけであれば幸いです。



## がん相談支援センター・がん患者サロンについて

### ■がん相談支援センターについて

がん専門相談員（看護師等）が、患者さんやご家族からのがんに関連した質問や相談をお受けし、情報提供や問題の解決に向けて、一緒に考えていきます。

※個人の秘密は守り、相談されたことにより不利益が生じないように配慮します。

※相談は無料です。

※当院を受診されていない方の相談もお受けしています。

受付時間：月～金曜日（祝日除く）  
8：30～17：00

対応時間：月～金曜日（祝日除く）  
8：30～17：00

場 所：中央棟1階 総合相談センター・がん相談支援センター

### ■がん患者サロン『きぼう』のお知らせ

日 時：2020年9月17日（木）14：00～16：00

場 所：当院 中央棟9階 会議室

テーマ：化学療法の副作用と生活

担当者：がん相談支援センター看護師

※新型コロナウイルスの感染予防のため、急遽中止となる場合があります。中止の場合は、院内掲示板やHP等でお知らせいたしますので、事前にご確認をお願いいたします。

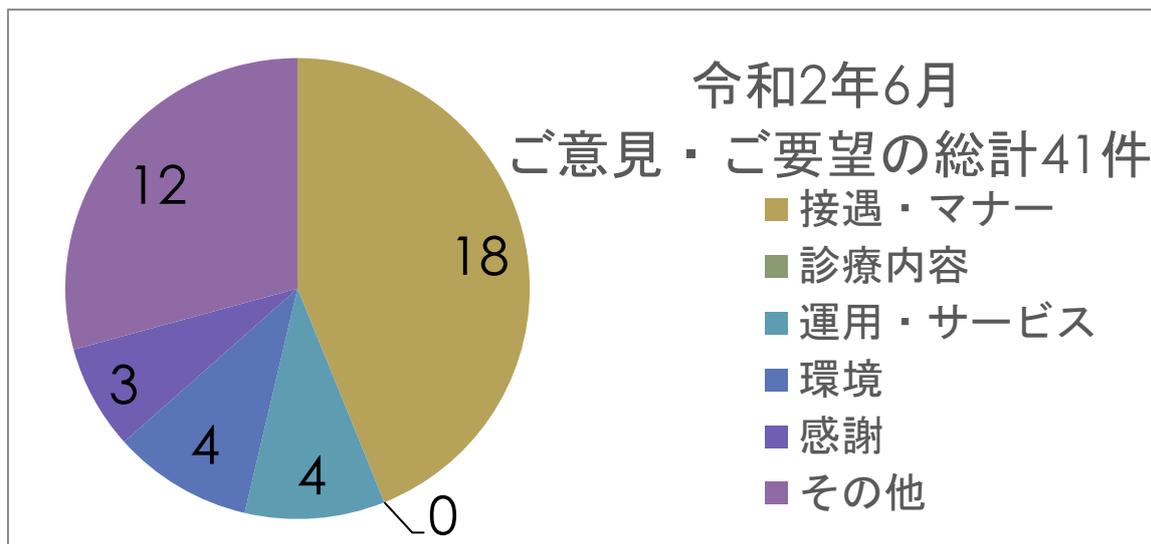


## 患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。今後もお気づきの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<ul style="list-style-type: none"> <li>食膳には消毒用、ないしは紙ナプキンが必要です。特にこの時期ですから。</li> <li>談話室に飲料用の紙コップを置いて欲しいです。</li> </ul>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>各病室の入り口にアルコール消毒液を、室内洗面台にはハンドソープを設置しておりますので、食事の際の手指消毒にはそちらをご利用頂ければと思います。</p> <p>申し訳ございませんが、ティッシュペーパー等の消耗品は患者さんご自身にご準備頂いております。これらは中央棟1階売店でも購入することができます。</p> <p>また紙コップにつきましても、省エネの観点から当院では準備しておりませんので、ご自分のコップをご用意頂ければと存じます。</p> <p>以上、お手数をおかけしますが、ご理解ご協力の程、よろしく願いいたします。</p>
<p>デイルームの空調は別管理が望ましいです。周囲がガラスで眺めは良いのですが、夜は寒いです。明りが少し暗く、読書がづらいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>大変申し訳ございませんが、デイルームを含め共有部分の空調を個別に管理することは、設備的に難しくなっております。</p> <p>また、患者さんごとの体調によっても体感温度は大きく変わってまいります。</p> <p>お手数ですが衣類等での調整をお願いいたします。</p> <p>また、病室内で読書をされる際は、テレビモニター下部に読書灯がございますので、そちらをご利用ください。</p> <p>以上、ご理解ご協力の程、よろしく願いいたします。</p>



## 当院へのご支援の御礼



〈当院職員とスターバックスコーヒーの方々〉



〈近隣の保育園からいただいたお手紙〉

引き続き多くの方から当院にご支援をいただいております。マスクやフェイスシールドをはじめ、飲食物や日用品のご寄付もたくさんいただいております。また、近隣にお住いの方々から病院への励ましのお手紙もいただいております。当院正面玄関の回転扉にいただいたお手紙の一部を掲示しておりますので、ぜひご覧ください。なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。(http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html)

当院へご支援くださった皆様へ、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

## 編集後記

夏の日差しが眩しいこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

夏には花火大会、里帰り、海・山のレジャーなど、いろいろな楽しいイベントがあると思います。その中でもやはり、花火大会を楽しみにしている方は多いのではないのでしょうか。

歴史的記録の残る最古の花火大会は「両国の川開き」だそうです。

これは江戸時代の享保17年(1732)の大飢饉で多くの餓死者が出て、更に疫病が流行し国勢に多大な被害と影響を与え、幕府(8代将軍吉宗)は、翌年犠牲となった人々の慰霊と悪病退散を祈り、隅田川で水神祭を行いました。この時に、両国橋周辺の料理屋が花火を上げたことが「両国の川開き」とされています。これが今の「隅田川花火大会」の始まりだそうです。

今年の花火大会は新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。

来年は慰霊と悪病退散を祈りつつ鑑賞したいですね。

(臨床工学室 堀 裕則)



北部病院だより 第146号  
2020年8月1日発行

発行責任者 門倉 光隆 (昭和大学横浜市北部病院長)  
編集責任者 緒方 浩頭 (広報委員会 委員長)  
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1  
電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>  
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。